

## 【耐性のあるコミュニティづくりのためのリーダーシップ】

8月21日(水) 9:00~11:30 ポートランド市役所

文責 2013年東京財団週末学校研修生 新潟県村上市 富樫 充

ポートランド市役所議場において、市の概要及び市の議会制度について説明いただき、耐性があり変化に強いコミュニティづくりについて、市議会議員、行政職員、ネーバーフット関係者、地域づくりグループ関係者の計5名からそれぞれの考え方を説いていただき、その後、質疑応答により各自の考えをうかがった。

### ■ポートランド市の市政運営について

ジェリー パーカー (国際ディレクター)

#### ○市の概要

- ・私は、大学を卒業し、ポートランド市へ移住する。ポートランドは、私のような人がたくさんいる。
- ・ポートランドに来る理由として、コミュニティがしっかりしているし、手助けをしてくれる要素があるからと考える。
- ・環境や様々な活動をまちの人が進めていきたいという思いから、市役所としても活動するにあたり、市民やネーバーフットを巻き込み活動している。

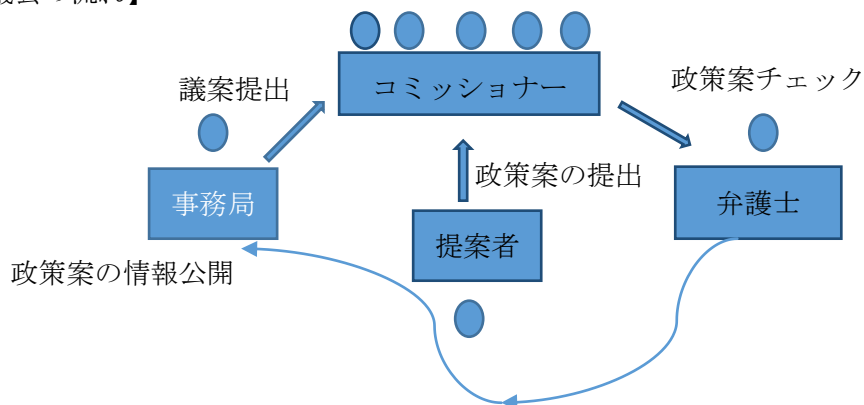
#### ○行政運営について

- ・ポートランド市では5人の議員が選出され、1人は市長として、4人はコミッショナーとなる。
- ・それぞれ違う部局を担当する⇒市長が部局を割り当て、予算を決定する権限がある。それ以外、市長の権限はほかの議員と同じで、強くなく、協力しながら運営している。
- ・現在市長は、都市計画とサステナビリティ(持続可能)が一つになった部局を担当している。

#### ○議会の運営について

- ・毎週水曜日の朝、議会を開く。
- ・誰でも入って、話をするができる。
- ・証言は、サインアップすることで誰でも可能である。

### 【議会の流れ】



- ・コミッショナーは議決前、3人そろって集まる場合は、多くの人の前でなければならない。2人までは可能である。

- ・採決は、3人以上が賛成した場合は可決となり、2対2の同数の場合は、最後に市長が採決する。
- ・案が否決された場合は、担当コミッショナーと事務担当が再度調整し、再提出可能である。
- ・賛否の発言は、偏りが無いようバランスを取りアレンジする。

耐性あるコミュニティづくりについて、対話形式で、各パネラーの皆さんにお題を提供し話をさせていただく。

1 各パネラーからの自己紹介から、耐性ある、変化に強いコミュニティづくりについてコメントいただきたい

#### ■議会議員【ロバート】

- ・市議会の壁の絵は、右 1000 年前、中 160 年前、左 20 年前のポートランド市の変化の様子を表している。
- ・過去 10 年間の変化も重要である。
- ・日本からも耐性のあるコミュニティづくり学ぶところも多く、過去限られた資源や人口減少の中でどのようなコミュニティづくりを進めればよいのかというところに直面している。
- ・皆さんの経験を基にして、将来をつくることに価値があり、特に直面する人口減少に対する取り組みは特に価値がる。
- ・地球上のすべての資源を得ようとするのは不可能で、資源を保持しようとする人との不一致がある。
- ・限られた資源の中で、皆さんがコミュニティの中でどのように向かうのか、その姿勢が重要である。
- ・課題やチャレンジをどのようにし、責任感を持って取り組んでいると思いますが、それをどのように共有するのも重要で、社会においてネガティブなところも共有し進めることも重要ということで話をした。
- ・現職は、都市計画でもかかわりを持ち、NPO 付きの弁護士や広域政府レベルの議員、民間部門の弁護士、そして大学では、講師をしている。

#### ■スーザンアンダーソン（女性）市役所都市計画サステナビリティ所属ディレクター

- ・現在の部局は、比較的新しい部局で、従来は、これまでの都市計画にあった部局と、環境等の部局を合わせ 4 年となる。
- ・このようなセクションができた背景としては、今回のテーマである耐性のあるコミュニティづくりを進めるため、課題を把握し進める必要がと考える。
- ・アメリカは、過去、必要であれば資源を確保し、成長する方向で進めてきた。
- ・現在、限られた資源を活かしどのように持続的に成長していくかが課題で、考えて行く必要がある。
- ・適応性が高く耐性の高いまちづくりためには、新たな考え方が必要となる。
- ・経済や環境問題などについて、ビジネスとのかかわり、そして、政治とのかかわり、それをちゃんと踏まえていないと解決できないのではないかと考えている。
- ・気候変動、施設の老朽化、高齢化などの課題が耐性に影響を及ぼすが、科学的把握を踏まえ、政治的にどう影響するのか、そして政治のリーダーがどういったものとするのか方向性を定める必要がある。
- ・レジリエンスをつけるためには、多くの選択肢を持ち、チャンスをつかみ、予測しながら行動をする必要がある

■ブライアン（男性）オフィスネイバーフットホブブメント マネージャー（市民と直接かかわり、コミュニティの参画を進める）

- ・仕事として、社会的持続可能性について、市民への情報提供、市民が参加できるように支援を進めている。
- ・市からコミュニティづくりのための資金やツールを与え、コミュニティがやりたいことをやっている。
- ・マイノリティのコミュニティへの資金提供支援も行っている。
- ・コラボレーションをいかに進めるかもテーマとしている。歴史的にマイノリティの人たちがいかに連合し、政治的に対応できるかという支援も行っている。
- ・ウエルカムで、居心地の良い対応、参加のしやすい環境づくりを進める。参加する人の文化に合わせた対応と言語表示などを工夫している。
- ・いかに、ガバナンスを対等なパートナーとして取り組むか、少ない資源の強みを出していただきつながる。

■ボブ ケレット（男性）（サウスイーストホーソンフェスティバル）

- ・アプリフットというネイバーフットの連合体の一つで事務を担当している。市内7つの連合体があり、それぞれ市からの支援を受けている。
- ・20のネイバーフットと一緒に仕事し、地域の人たちと土地利用、交通関係などを中心にし、特に耐性の強いコミュニティには、関係性が深い。
- ・変化のペースが速くなってきている。これからますます早まる。それに合わせた対応が必要と考える。
- ・行政からどのように対応して行くのかということも必要であるが、何が来るのかという変化について対応することも必要で、資源が少なくなっているため行政だけでは対応できなくなっている。一緒に活動をする仲間づくり、自ら考え、耐性あるコミュニティだからできる人材育成、リソースを与えることが重要と考える。

■チップス ジャンガー（アーバングリーン）

- ・環境問題の活動団体アーバングリーンから。活動の目標は、社会的経済的に地域にどう還元できるか
- ・これからはますますローカルということが問題になってくると考える。
- ・取り組みに対し変革をもたらすには、多くのパートナーシップを持ちながら活動を進めることが重要と考える。
- ・地域、行政、企業などとの多くのパートナーシップを結びながら取り組むことで、計画は早く進む。
- ・アーバングリーンのメンバーは、バックグラウンドを持った方々で、どうやってやる気をもって、共通の目標に向かって進めることができるのか、連携しながら進めている。

2 話の中で、自らのコミュニティと共通あるいは、質問アイデアなどがありましたら。

■高齢化や人口減少により、ヘルスケアを必要とする人が増加している。そのような中で、課題の見せ方について。(久保田)

- ・高齢化している中で、高齢者のサポートは難しい。
- ・世界的にみると、人口動態は安定している。ドイツ、イタリアなどでは日本の状況は参考になる。

- ・ どういうニーズが将来出てくるのか。把握する必要がある。
- ・ ポートランドでは、中堅層の年齢が少なく、マイノリティの人口が増加傾向にある。今後、多様な人種への対応が必要になってきている。
- ・ 高齢者が公共交通などにより移動できるようなアーバンデザインも必要になると思う。
- ・ 高齢者のヘルスケア。社会的なケアやコミュニティの中でのケアが重要になる。
- ・ ヘルスケアのバックグラウンドで、重要な点は、市から資金をコミュニティへどの様に提供するかで、エルダーズインアクションというプランにより、高齢者がいかにリーダーシップを持ち、コミュニティで生活が送れる様な支援などを進めている。
- ・ 高齢者へ投資するというものではなく、地域のコミュニティへ投資するというものとして考えている。日本にも同様の制度はあるか。

・【大塚】日本では、高齢者を支援する仕組みとしては、年金支給までは雇用の支援として、シルバー人材に関する支援、余暇活動の支援（老人クラブなど）があり、地域の中で、役割を持ってもらうことが重要となっている

・エルダーインアクションは、支援することで、行政の取り組みに対する提言などをしていただけるような組織、あるいは人材を育成していただくようにする仕組みとなっている。

■人口の面、都市計画の面、全てにおいて開発しつつあるのかと思うが、ポートランド市全体として、どのようなポリシーをもって取り組んでいるのか？

市民が主役として取り組んでいるのだと思うが、どのような思いをもって取り組んでいるというところを補足いただきたい。【松本】

【ボブケレット】

- ・ 自分の地元のために取り組んでいるという思いはある。自分の住んでいるところにプライドがある。プライドは、コミュニティの人のために何かをやろうという原動力となっている。
- ・ チャレンジは、プライドを持つことや持ってもらうことは重要であるが、「どうせ」とか、シディカルにならないようにし、意味のある活動にプライドをもって参加できるようにすることが重要である。

【ロバート】

- ・ 過去、ポートランドは、川は汚れ空気は汚染されていた。
- ・ ここに住み 40 年、市の施策、草の根の取り組みなどによる連携で、大きく変わってきた。
- ・ サステナビリティを踏まえた市民参加の全体の体系というものがないと単に、行政が政策をつくっただけでは、物事は成り立たない。行政のリーダーシップもそういったものが組み合わせり成り立つと考える。
- ・ 今、日本が経験していることは、世界に向け最も重要なところで、量から質への転換となる最も重要な現象と考える。

【ブライアン】

- ・ 共通点は高齢化の進行とともに、若者の政治離れにある。
- ・ 私たちが取り組む必要があるものとしては、若者に自分たちも何かできるという思いとともに、参加の「場」を提供する必要がある。

【スーザンアンダーソン】

- ・ ポートランドのプライドは、サステナビリティに対するプライドがある。自然環境保全に対する意識がプライドになっている。

### 【ダン】

- ・個人個人が市に対しどのような思いをもって取り組みを進めるか、それぞれ係わる人の思いもある。また、問われることで、自ら確認することもできる。
- ・心で考えることもそうですが、気持ちやパッションをもってやっている。そして地元が好きという思いでやっている。
- ・そして、量ではなく、質でやるのが大切です。
- ・パネラーの皆さんは、愛着心プラス自分たちを信じていることができる強い人たちです。
- ・これからは、自分を信じる、組織の人を信じるということが大切になってきます。

### ■地域の取り組みへの参加の差を埋めるためには、リーダーの後継者について（田中）

- ・市民参加を推奨するアプローチを広げ、認識を強めている。従来はネーバーフットが、市民参加の窓口であると捉えていた。しかし、これでは、窓口を広めることは難しいと認識している。他の行政と協力しながら進めているが、従来とは異なり、若者やマイノリティなどに対し、ボランティアを通じたコミュニティガーデンづくりや大工道具の貸し出しを通じた参加など、自らが貢献できるような参加の場づくりなども進めている。
- ・一人ずつに当たり、人を集めることから、楽しい取り組みをし、人間関係の形成へつなげていきたい。次の世代へつなげるためには、どうしたらよいか。場に愛着だけでは難しく、そのプロセスが大切と考える。

### 【ボブ】

- ・自分は今の職が好きで、このポジションによる繋がり、そして PSU とのつながりを大切にしている。自分が今心配しているのは、市役所で一緒に仕事をしている人がいなくなるのが心配である。
- ・一緒に仕事をしてくれる人たちは、何かを変えたいと思う人が集い取り組みを進めている。そして、そこからつながっている。

### 【スーザン】

- ・計画ではなく、人と実際に取り組むことが重要で、一緒に時間を過ごすことがとても大切です。
- ・権限にかかわらず同じ視点を持つことが大切です。

### 【ロバート】

- ・価値観の多様化してきている中、リーダーシップをとる人間も多くなっている。
- ・今後、多様な人種の中で、使用言語が 70 以上と、どういった人がコミュニティのリーダーとなっていくのか不安です。現在、5 つマイノリティのコミュニティ支援を行っていて、リーダーシップの育成に向けた支援を具体的に行っている。

## 3 まとめ

現状を維持することができ、壊れたものを再生でき、学ぶことができ、再構築することができるのが耐性のあるコミュニティと考える。

それをすることで、どうやって引き継ぐかが大切と考える。

どうやって、あるものを確保して、4つの項目を確保し、会話を通じて引き継ぐことが重要と考える。